

「第11回経営懇話会」会議概要

NO	要旨	回答
1	<p>新型コロナウイルスのような事態への対処も、地域の中核病院として計画に反映しておくべき事項ではないかと考えます。</p>	<p>今般の新型コロナウイルス感染症をはじめとする未知の感染症の発生に対しては、市において「千歳市新型インフルエンザ等対策行動計画」を策定し、対策実施に関する基本方針等を定めるとともに、当院内においても感染対策関連の委員会を複数設置し、対策に努めています。</p> <p>新型コロナウイルスのような突発的な感染症の発生は予測困難なものであり、これまでに発生したSARS等の感染症に対して臨機応変に対応し、新型コロナウイルスに対しても随時対応を行っております。また、計画の策定においては、不測の事態への対応を盛り込むことは困難でありますことから、弾力的に運営できるよう各費用を積算し作成しております。</p> <p>中期経営計画においては、『「地域完結型医療」「救急医療」「高度医療」「小児・周産期医療」「災害医療」「へき地医療」の推進を図る』こととしておりますが、今般の新型コロナウイルス感染症等への対応も含め、引き続き地域の基幹病院としての機能充実、体制の強化等に努めてまいります。</p>
2	<p>非正規職員の待遇改善について、手当や賞与等で具体的な変更点を教えてください。また、正規雇用者と非正規雇用者との間で、業務以外に研修会の参加や委員会等の会議出席等で何か線引きを明確にしたことはありますか。</p>	<p>千歳市で従来臨時職員とされていた非正規職員は、現給保証することを前提に令和2年度から会計年度任用職員となりました。この変更により、賞与にあたる期末手当等の充実が図られ、給与費の予算額が増加したことの要因となっています。また、特別休暇が付与されることとなるなど、待遇の改善を実施しています。</p> <p>外部の研修会等への参加については、従来から当院が費用等の負担をして積極的に院外の研修に参加してもらっているほか、院内委員会への参加も可能としております。今後も全職員が働きやすい環境づくりに取り組んでまいります。</p>
3	<p>会計年度任用職員の任用や消費増税は事前に分かっていることですが、これらに対する対策を検討した上で予算の計上を行ったのでしょうか。</p>	<p>予算編成にあたっては、収益の確保に最大限努力するとともに、病院運営全般にわたる業務の見直し・検証を行っております。特に、収入面では、医師の確保が最も重要と考えていることから、大学医局への積極的・継続的な働きかけを行い、常勤医については嘱託医も含め令和元年度を上回る39名の体制とするとともに、医療技術員においても、理学療法士や言語聴覚士等を増員し、リハビリテーションの充実等医療ニーズに適切に答えながら最大限の増収を図る予算としたところであります。</p> <p>一方、費用面においては、薬品や診療材料等の購入に際し徹底的な価格交渉によりコスト縮減を図るなど、運営経費全般のコストを縮減し、より一層の経営努力を重ね費用の抑制に努めております。</p> <p>しかしながら、会計年度任用職員制度への移行や消費増税による負担増により、赤字予算での編成となりましたが、今後も、効率化・節減合理化の徹底と費用対効果の推進に努め、医療の質の向上と経常収支黒字化の両立に努めてまいります。</p>
4	<p>赤字予算となっている現状を回避するため、医療従事者の質の向上が必要です。医師数を充実させて、市民が通院したいと思える病院経営をしてください。</p>	<p>医師の確保については当院としても重要な項目として認識しており、医師数の維持及び定着に取り組むとともに、増員に向けて大学医局への派遣要請活動や医師人材紹介システムの活用等を積極的に行っております。</p> <p>令和元年度の医師数は36人でしたが、令和2年度は39人となっており、引き続き増員に向けての取り組みを行うことで診療体制の充実を図ってまいります。</p>